記者発表資料

平成28年　1月20日
東北公益文科大学
「道の駅」鳥海
国土交通省酒田河川国道事務所

「道の駅」鳥海と東北公益文科大学の連携

～道の駅鳥海公益活性化プロジェクト報告会を実施します～

「道の駅」鳥海と東北公益文科大学が連携して行っている東北公益文科大学の競争型課題解決演習（道の駅鳥海公益活性化プロジェクト）は、平成27年10月から毎週金曜日に9名の学生が「道の駅」鳥海を元気にするプロジェクトとして、道の駅の多様な役割や地域社会との関わり、課題について学ぶと共に、若者目線での「道の駅」の売り場の改善や、将来に向けた「道の駅」の活性化策の提案等に取り組んでまいりました。

この度、最終日となる第15回目の授業を下記のとおり実施しますので、お知らせします。

【道の駅鳥海公益活性化プロジェクト報告会】

●実施月日　　平成28年1月22日（金）　14:00～15:00

- 14:00～:プロジェクトの概要説明
- 14:10～:学生からの提案発表（Aグループ、Bグループ）
  特産品売り場の改善、道の駅の更なる活性化策について
- 14:45～:講評

●実施場所　　「道の駅」鳥海、特産品売場内

●受講生　　東北公益文科大学の学生9名

発表記者会:酒田記者クラブ、鶴岡記者会

問　合　せ　先

○競争型課題解決演習について
東北公益文科大学　特任講師　皆川（みなかわ）　治（おさむ）
山形県酒田市飯森山3－5－1　　電話:0234－41－1115

○「道の駅鳥海」について
「道の駅」鳥海　取締役常務　森（もり）　康彰（やすあき）
山形県飽海郡遊佐町菅里字菅野308－1　　電話:0234－71－7222

○大学と「道の駅」の交流・連携について
国土交通省 東北地方整備局
酒田河川国道事務所　技術副所長（道路担当）藤原（ふじわら）　久（ひさし）　（内線205）
調査第二課長　石井（いしい）　宏幸（ひろゆき）　（内線451）
電話0234－27－3331(代表)

「道の駅」鳥海と東北公益文科大学の連携

【実施内容】

東北公益文科大学の学生が、観光や産業振興などの多様な機能を持ち、地方創生の拠点として注目を集めている「道の駅」を元気にするプロジェクトに取り組みます。

山形県遊佐町の**「道の駅」鳥海**、国土交通省酒田河川国道事務所と連携し、以下を目的とした活動を行います。

1.「道の駅」の多様な役割や地域社会との関わりの把握

2.「道の駅」が抱える課題の把握

3.大学生目線での「道の駅」の売場の改善

4.将来に向けた「道の駅」の活性化策の提案







東北公益文科大学
所在地：山形県酒田市

東北公益文科大学は、2001年に設立された、日本で初めての「公益学」を学ぶことができる大学です。山形県ならびに当時の庄内14市町村が設立した公設民営の大学です。グローバルな視野を持ち、地域の人々とともに、地域社会が直面する経済、行政、福祉などの課題に、リーダーシップをもって果敢に取り組む人材を育成します。



「道の駅」鳥海
所在地：山形県遊佐町

「道の駅」鳥海は、山形県の最北、遊佐町の国道7号沿いに位置する道の駅です。日本海と鳥海山の恵みを受けた地元産の農産物と水産物を人気の的として、入込み客数県内第1位を誇り、全国から来訪者を集めています。

「道の駅」と大学の連携について

○ 「道の駅」における大学との連携、受入体制を整備し、若者の就労体験や交流の場として活用。
○ 地域の魅力の集まる「道の駅」と、観光学等を学ぶ地域外の若者が交流することで、新たな価値の創造を図る。
○ 道の駅と大学のニーズに応じ、「連携企画型」と「就労体験型」の2種類の形で実施

実施イメージ



※全国「道の駅」連絡会で双方のニーズをマッチング

これまでの実施例

＜連携企画型＞

京都府亀岡市、南丹市、京丹波町の道の駅
・京都精華大学の大学生が、道の駅で販売するスイーツパッケージをデザイン


包装デザイン打合せ

「かなん」（大阪府河南町）
・道の駅と大阪府立大学の大学生のコラボによりオリジナル弁当を開発


道の駅弁当「かなん冬の恵み」

＜就労体験型＞

「霧の森」（愛媛県四国中央市）

・地元イベントの企画立案、実施補助のほか、道の駅内で製造されている地元名産品の製造・販売の補助を実施。
・H25年度は10名受け入れ、うち7名は関西圏の大学から参加

・H15からこれまで約110名が実施
・そのうち2名が「道の駅」へ就職


大学生が企画したイベント


地元名産品「霧の森大福」

項　目	連携企画型	就労体験型
概　要	「道の駅」側と大学側でお互いのニーズを確認し、付加価値を創出する企画・立案等を行うもの	「道の駅」の運営業務において、若者の視点、感性やITスキル等を通して新たな行動や発見を期待するもの
内容例	地域巡りツアー企画、商品開発、売場改善　等	イベントの企画・運営、新しい観光資源の発掘 農作業の体験、地元産品を使った商品開発 物産販売の補助、HP等による情報発信の提案・実施　等
期　間	通年の授業の中での通いを想定	概ね2週間以上の長期宿泊型を想定 （夏期休暇期間活用）
受入学生	道の駅近傍の大学を想定	全国の大学を想定
受入人数	ゼミ単位（少人数～10名程度のグループを想定）	数名

＜連携企画型の事例＞※道の駅ではない事例も含む

○ 観光
- ・地域巡りガイド（跡見学園女子大学）
- ・日帰り観光プラン作成（和歌山大学）

○ 商品開発
- ・地元伝統野菜を活用した道の駅弁当（大阪府立大学）
- ・地場産品を活用したお土産品開発（弘前大学）



地域巡りガイドの様子

○ まちづくり・地域活性化
- ・キャンプ場を起点とした地域活性化（和歌山大学）
- ・ご当地キャラクターの発案・活用（大妻女子大学）

出典）各大学ホームページ参照

＜就労体験型の実施スケジュール（イメージ）＞

大学と全国「道の駅」連絡会で基本協定の締結

～3月　「道の駅」の受入概要調整

～5月　学生の派遣希望

全国「道の駅」連絡会によるマッチング

7,8月　就労体験実施

実習会場　「道の駅」鳥海　位置図



